

消団連の食のグループと食品安全委員会委員との懇談会（第2回）

1．日時：平成15年9月3日（水）14：00～15：00

2．場所：食品安全委員会中会議室

3．出席者：「全国消費者団体連絡会の食のグループ」（氏名50音順）

- | | | |
|----------------|----|-----|
| ・東京消費者団体連絡センター | 池山 | 恭子 |
| ・全国農協青年組織協議会 | 伊藤 | 悟 |
| ・東京都地域消費者団体連絡会 | 江木 | 和子 |
| ・全国消費者団体連絡会 | 神田 | 敏子 |
| ・全国消費者団体連絡会 | 高野 | ひろみ |
| ・日本生活協同組合連合会 | 中野 | 勲 |
| ・日本生活協同組合連合会 | 原 | 英二 |
| ・日本消費者連盟 | 名和 | 雪子 |
| ・日本消費者連盟 | 水原 | 博子 |
| ・家庭栄養研究会 | 蓮尾 | 隆子 |
| ・東京都地域婦人団体連盟 | 飛田 | 恵理子 |

（敬称略）

< 食品安全委員会委員 >

寺尾委員長代理、小泉委員、見上委員

< 食品安全委員会事務局 >

梅津事務局長、一色事務局次長、藤本勧告広報課長、
西郷リスクコミュニケーション官、宮崎評価調整官

4．議事（司会：西郷リスクコミュニケーション官）

- （1）委員長代理挨拶
- （2）全国消費者団体連絡会事務局長挨拶
- （3）意見交換

5．意見交換の主な発言（：消団連の食のグループ側発言　：委員及び事務局側発言）

： 背根神経節を含むせき柱については、昨年5月にOIEで指摘があったにもかかわらず、対応が遅れているのは問題であり、今後の教訓として活かしてほしい。手続きは必要であるが、そのスピードも重要である。

： 背根神経節のリスクについては、プリオン専門調査会で、「せき髄と同程度であると考えられる」との薬事・食品衛生審議会の部会の評価は妥当とされた。

また、この評価結果に基づき、背根神経節を含む牛せき柱については特定危険部

位に相当する対応を講じることが適当であると指摘されたところである。委員会が行ったリスク評価を受けて行うリスク管理機関による施策については、委員会は監視し、注意を促していく。

委員会はどのような場合に勧告できるのか。

委員会の行ったリスク評価の結果に基づいて実施されるリスク管理機関による施策について、委員会が必要と認めるときは勧告できる。

用語の使い方について、国際的な認知度が高ければ国際的な整合性という点から日本独自の用語の使い方は避けてほしい。

S R M (specified risk material) を訳した用語としての特定危険部位と法律で定義される特定危険部位と2種類あり、意味が違うところに問題があると認識している。

用語の使い方については、主体性を持って堂々と議論してほしい。

用語はできるだけ統一したほうがよい。定義が既になされているものは、当委員会でも、それを踏襲したほうがよいと考える。

プリオン専門調査会で加工品に関しては十分なデータがないという話があった。評価のために不足しているデータを収集していくことも必要ではないだろうか。

緊急時対応専門調査会でJCO（核燃料加工会社）事故の例が資料に出ていたが、JCO事故では、周辺農家が出荷する農産物について安全性に信頼を持っている人は買ってくれたが、都心の消費者は危険だと言って買ってくれないなど、コミュニケーションの大切さが浮き彫りになった例であり、また、事故の対応の仕方が市と村で異なったため混乱を招いたなど緊急時対応で非常に参考になるものもあったと思う。緊急時対応のあり方に関しては、他分野の事例についても日常的に情報収集して検討してほしい。

メチル水銀やカドミウムなどについて、WHOで厳しい基準設定を検討しているので、日本国内でも国際的動向を見て厳しい安全基準作りをお願いしたい。

また、胎児への影響についても評価してほしい。

カドミウムは胎盤を通過しないので胎児に影響はない。カドミウム汚染地域でもイタイタイ病が発症していない地域もある。

メチル水銀は、半減期があり、体内にたまり続けることはない。濃度が高いものを大量に食べた場合に水俣病になる。大量に鮪を食べている漁師はメチル水銀中毒にはなっていないという事実もあり、ある一定レベルにならないと発症しないと考えられる。

安全基準の設定は、はっきりとした科学的根拠に基づいて行っていきたい。